

【峡南半農半Xだより】 第6号

ー「ブロッコリー」と「タマネギ」の栽培方法についてー

令和8年8月26日
山梨県峡南農務事務所

今年も猛暑が続くなか、農作業を行う際には時間帯を考慮しながら進めることが欠かせない一方で、季節は少しずつ変わり、秋冬野菜の準備が本格化する時期を迎えています。

さて今回は、秋冬野菜の代表的な「ブロッコリー」と「タマネギ」について、これからの時期に行う基本的な栽培方法を解説します。

～ブロッコリーの栽培方法～（定植：8～9月頃ー収穫：11～12月頃）

（1）定植

1坪あたり完熟堆肥 7kg と苦土石灰 350g を定植の2週間前までに、化成肥料（8-8-8）500g～700g を定植の1週間前までに施します。

定植苗は、本葉が5～6葉の病害虫のない健全な苗を植えましょう。株間は40～45cm で植付株数は、1坪あたり12～14株が目安です。定植後、根がしっかり張るように、株のまわりにたっぷり水をあげてください。

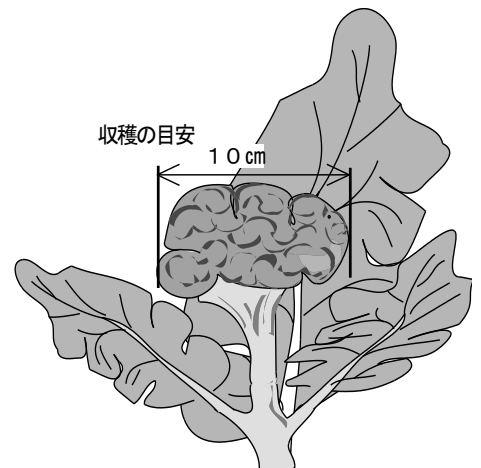
（2）追肥・土寄せ

花蕾が形成される前に、いかに株を大きくするかで花蕾の大きさが決まるため、定植後の追肥は重要です。追肥は2回に分けて施します。

NK 化成肥料（14-0-14）150g を、1回目は定植後10～15日、2回目は25～35日目安で行います。また、除草を兼ねて、畝や株間の土の表面を浅く耕し、倒伏防止のために土寄せを行います。

（3）収穫（個々の花蕾が小さく固く締まっている状態）

気温の高い時期は花蕾の生育が早いので収穫遅れとならないように注意しましょう。花蕾の大きさが直径10cm程度となったときが収穫の目安です。



（4）害虫対策

収穫後の残株はコナガ（蛾の幼虫）の繁殖場所となり、翌年の発生源となるため、すき込み等の処理を行いましょう。アブラナ科野菜（キャベツ、ダイコン等）の連作を避けて、計画的な輪作を心がけましょう。

～タマネギの栽培方法～（定植：11月頃～収穫：翌年6月頃）

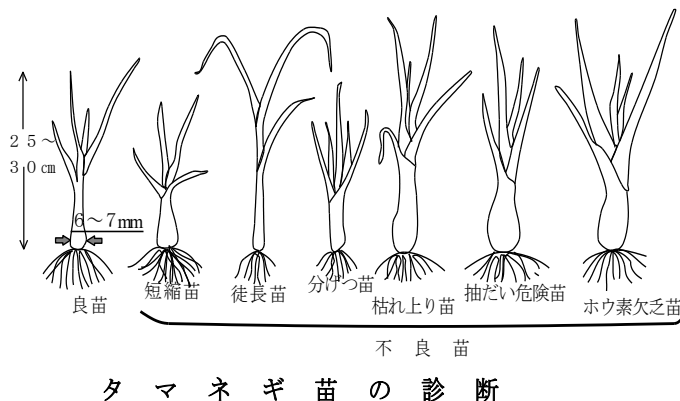
（1）施肥

1 坪あたり完熟堆肥7kg、苦土石灰700gを定植の2週間前までに施します。化成肥料（8-8-8）700gを定植の1週間前までに施します。

（2）定植

定植苗は、草丈25cm～30cmで鉛筆大の太さのものを目安にします。右図のような不良苗ではなく、良苗のものを定植するようにしましょう。畝は、畝幅90～100cmで雑草と乾燥防止のため黒マルチを張ります。株間は15cm間隔で、植え付けの深さは3cm程度、葉の分岐点より深くないようにし、覆土は軽く押さえましょう。1坪あたりの植栽本数は100本を目標としましょう。

とう立ちや分球を防ぐため、定植時期（おおむね11月上旬）を守りましょう。定植が早すぎたり遅すぎたりすると、生育不良や品質の低下につながることがあります。



（3）追肥

追肥はNK化成肥料（14-0-14）250gを、1回目は12月中旬～1月下旬頃、2回目は2月中下旬頃に施します。貯蔵性を高めるには多肥・遅肥を避けます。タマネギの根は、浅いので乾燥に弱く、水不足では球の肥大が悪くなります。また雑草にも弱いので、除草は早期に行うかマルチ栽培で行いましょう。

（4）収穫・貯蔵

収穫は、ほ場全体の80%の茎葉が倒伏した時を目安とし、2～3日晴天が続いた後収穫します。収穫後、1～2日畑に並べて天日で乾燥させてから貯蔵しましょう。収穫の時期が梅雨の時期と被るため、早く収穫できる品種などを利用し、できるだけ梅雨入り前に収穫できるようにしましょう。

貯蔵は、球はしっかり充実してしまったものを日陰の風通しのよい場所に保管すれば、品種によって異なりますが、長く貯蔵できます。

～結びに～

これから秋冬作の大事な管理時期を迎えます。熱中症対策に十分留意しながら、適期作業を進め、健全な生育の確保に努めましょう。

問い合わせ先 山梨県峡南農務事務所（峡南地域普及センター）
農業農村支援課担い手育成担当
住所：市川三郷町高田111-1
電話番号：055-240-4116